



# CIVIC FORCE

## NEWS LETTER Vol.4

ニュースレター (Sep, 2015)



茨城県常総市にて、浸水により孤立した福祉施設に職員を送り届けるとともに食糧、医薬品などの支援物資を配布しました

### 茨城の被災地に緊急支援チームを派遣

押し寄せる茶色の濁流、猛スピードで流される家屋や木々、停電、断水——日本列島を、また自然災害が襲いました。

9月9日に東海地方に上陸した台風18号の影響で、各地で大雨が続き、栃木県と茨城県、宮城県で「大雨特別警報」が発令されました。翌10日には、茨城県常総市の鬼怒川の決壊をはじめ各地で土砂災害や河川の氾濫が相次ぎ、市街地の浸水や土砂崩れによる家屋の倒壊など甚大な被害が出ました。避難者の数は、一時5,600人以上にのぼり、9月末現在も多くの人々が未だ学校の体育館や公民館、お寺などで避難生活を続けています。

このような状況を受け、Civic Forceは発災直後に被害状況に関する情報収集を開始し、即日、緊急支援チームの派遣を決定。パートナー団体のピースウィンズ・ジャパンとともに、特に被害が大きかった常総市にて、浸水により孤立した福祉施設への支援活動を開始しました。

また、長期化する避難所生活をサポートするため、パートナー団体の被災地NGO協働センターと協働でボランティア派遣のサポートを続けています。東北での大雨による被災状況の調査のため、同じくパートナー団体のオールラウンドヘリコプターも空からの情報提供を行いました。

今月のニュースレターでは、関東・東北大雨被災者支援の活動についてご報告いたします。また、東日本大震災で被災した若者をサポートする「夢を応援プロジェクト」の奨学生対象の東北自然体験プログラムの様子、ネパール地震支援のその後や東北支援についてもお知らせします。

#### ■ Contents

#### P2 被災地を支援する

- 【関東・東北大雨被災者支援】
- ・緊急支援チームを派遣

#### 【東日本大震災支援】

- ・地域に求められる ARH
- ・nina 神石高原 お試しツアーを実施
- ・夏の東北自然体験プログラム  
— 夢を応援プロジェクト

#### P6 アジアに展開する

#### 【A-PAD】

- ・スリランカで防災能力強化ワークショップ
- ・ネパール地震被災者支援  
ご寄付のお礼

#### P7 緊急対応体制を創る

発行日：2015年9月  
 発行：公益社団法人 Civic Force  
 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12  
 富ヶ谷小川ビル 2階  
 TEL：03-5790-9366  
 e-mail：info@civic-force.org  
 URL：http://www.civic-force.org

## 被災地 を 支援する

2011年3月11日以降続けてきたCivic Forceの東日本大震災の支援活動をはじめ、日本各地で発生する災害時の緊急支援活動についてお知らせします。

### 大雨 被災者 支援

### 緊急支援チームを派遣 孤立した地域に物資を輸送

9月9、10日の豪雨の影響で甚大な被害が出ている関東・東北地域に対し、Civic Forceは、発災直後から被害状況に関する調査を開始するとともに、緊急支援チームの派遣を決定しました。同時に特設口座を設けて寄付の受付を開始。皆様の応援のもと、パートナー団体のピースウィンズ・ジャパンとともに、特に被害が大きかった地域の一つ、茨城県常総市に入りました。

同日午後、チームは周囲が浸水した老人福祉施設に高齢者や職員など120人余りが取り残されているとの情報を聞き、水陸両用車やゴムボートで食糧や水、医薬品などの物資などを届けました。また、施設では利用者の介護を担う職員が不足していたため、ボートなどで介護職員を施設に送り届けました。周辺施設は深いところで約2メートル浸水しており、施設一階部分は完全に浸水していました。孤立した施設内は停電で暗く、皆不安そうな表情でしたが、チームのスタッフが到着すると安心した様子でした。施設職員は「利用者の中には薬が欠かせない方もいて、薬や食糧、水を運ぶことができてよかった」と話していました。



一方、発災から1週間以上が経過すると、避難所生活を続ける人の間に疲れが見え始めます。人の出入りも多い避難所では、風邪や感染症が蔓延する危険性も高まります。そこで、不安を抱えて避難生活を送る方々に対する支援を開始。東日本大震災や広島土砂災害など日本各地の災害で協働してきた被災地NGO協働センターによる「足湯」サービスのサポートを行っています。また、水没した家屋の掃除などのため、被災地NGO協働センターとともにボランティアバスを手配するなど、1日も早い被災地の復興のためにサポートを続けています。



ボートや水陸両用車を使い、孤立した地域に支援物資を配布

### 支援活動を支えてください

■三井住友銀行 青山支店 普通 7027403  
公益社団法人 Civic Force (シヤ) シビックフォース)

■クレジットカード・電子マネーのご寄付は下記より受け付けています。

[https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin\\_type=donation](https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation)

■ゆうちょ銀行 00140-6-361805  
公益社団法人 Civic Force (コウエキシャダンハウジン シビックフォース)

※通信欄に、「関東・東北大雨被災者支援」とご記入ください。

様々なサポートをするためにご寄付のうち15%は運営費として活用させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

## 災害対策本部に空撮動画を提供

9月の大雨の被害は、北関東だけでなく宮城県にも及びました。宮城県大崎市では、渋井川の堤防が決壊し広範囲に浸水しました。気仙沼市で活動するパートナー団体オールラウンドヘリコプター（ARH）は、11日、被災した地域の詳しい情報を求めていた大崎市役所に、空撮映像を届けました。

空撮映像の撮影にあたっては、天候の関係で ARH のヘリコプターが離陸できず、代わりに日頃から協力関係にある NPO の市民航空災害支援センターが飛行。撮影は、SOS シートの開発で協力してきた空撮専門の株式会社パスコに協力を依頼しました。ARH のメンバーは「災害時は、情報をより早く正確に届けることで被害を最小限に食い止めることにもつながる。民間の柔軟性を生かし、これからも役立ちたい」と話しています。



ARH のヘリコプター

## 第1回ヘリポートまつりを開催

ARH が事務所を構える気仙沼市内のヘリポートで、6月28日、第1回気仙沼ヘリポートまつり（実行委員会主催）が実施されました。

ヘリコプター格納庫を利用したスペシャルマーケットには、子どもたちに人気の駄菓子や気仙沼の地場産品の販売、山野草の即売などオリジナリティあふれる店舗が軒を連ねました。また、布を使った「布紙芝居」や救命士による AED 講習会のほか、ヘリの体験搭乗権をかけたじゃんけん大会などを実施。多くの市民が参加し、「ヘリが身近になった」などと話していました。



たくさんの来場者で賑わったヘリポートまつり

広島県を拠点に、福島からの避難・移住希望者に関する調査や移住支援活動などを続けるパートナー NPO 「nina 神石高原」は、8月14～16日と22～24日の2回、神石高原町で移住希望者に向けた「神石高原ツアー」を開催しました。

福島県から親子2組が参加したこのツアーでは、神石高原への理解を深めてもらうことを目的に、神石高原町の観光スポットや病院、役場、学校、地元企業、道の駅などを案内しながら、神石高原で暮らす魅力やまちおこしの取り組みについて紹介しました。



神石高原町で開かれた「真夏の雪まつり」の様子

また、今年7月にオープンしたばかりの自然体験型の公園「ティアガルテン」の牧場やドッグラン、農園のほか、移住先として想定される住居などを視察。移住先の一つとして必要な情報を提供するとともに、原発の被害や放射能の影響、移住に対する希望や要望を聞きました。

飯館村から伊達市に避難している家族は「ツアーに参加し、移住の決意が固まった。子どものためにも安心して暮らせる場所に住みたい」と言います。

元副町長で nina 神石高原の理事長の上山実さんは「広島と福島は遠く、また生まれ育った場所を離れることは大変な決断だが、ツアーへの参加をきっかけに他の土地での暮らしを考えるきっかけにしてほしい」と言います。



ティアガルテン園内で遊ぶ子どもたち

東日本大震災で被災した学生を奨学金と教育プログラムで応援する Civic Force の中長期復興支援事業「夢を応援プロジェクト」。その一環で8月と9月、東北の3つの NPO とともに体験プログラムを実施しました。

## 漁師が山に木を植える意義とは

豊かな自然が美しく、良質な牡蠣やホタテなど豊富な海産物が採れる宮城県気仙沼市唐桑（からくわ）半島。ここで、環境教育、植林・育林活動、自然環境保全などに取り組む NPO 法人「森は海の恋人」が、8月19～21日、「東北自然体験プログラム」を実施しました。参加したのは宮城県出身の奨学生2人。京都大学の学生とともに、森と海のつながりについて学びました。

初日は、船に乗り込み、牡蠣養殖場を見学。牡蠣やそのエサとなるプランクトンについて副理事長の畠山信（まこと）さんが説明しました。また九九鳴浜（くくなきはま）に移動し、海の生物を採取しながら生態と

## 受入協力機関：NPO 法人森は海の恋人

環境について学びました。

2日目は理事長で漁師の畠山重篤（しげあつ）さんと海ではなく山へ。森は海の恋人が27年前から始めた植林活動について畠山さんは「森が良くなると海も良くなる。山からの栄養が海へといき、豊かな漁場をつくる」と、漁師が山に木を植えることの意義を強調しました。

そして最終日は、2日目夜に釣ったアナゴを自ら調理して堪能したほか、震災前は海水浴場として賑わっていた大谷海岸を訪れ、建設途中の防潮堤を見学し、防潮堤建設に対する地域住民の思いを聞きました。



森は海の恋人プログラムの活動の様子。3日間を通して森と海のつながりを体感しました



### 「地域で頑張っている大人はかっこいい」 三浦 なつきさん（立命館大学3年、宮城県出身）

土木工学や自然科学の研究を政策にいかしつつ、自然を守り、自分たちの暮らしを守るためには、学際的な視点が重要であるとの話を聞き、気仙沼市やこれからの日本における自然との共生の方法を考えるためのヒントが得られました。また、地域で頑張っている大人はとてもかっこいいと思いました。

## 福祉施設で過ごした時間

## 受入協力機関：NPO 法人ネットワークオレンジ

2003年から宮城県気仙沼市で活動を開始したNPO法人ネットワークオレンジ（小野寺美厚代表）は、「障がいのある人もない人も、みんながまちづくりの主役だ！」をスローガンに、福祉、まちづくり、社会起業家育成と多岐にわたって事業を展開しています。このうち高校卒業生を対象とした地域活動支援センター「オレンジエッグ」や小学生の放課後デイサービス「オ

レンジキッズ」で、9月1～4日、福島県出身の奨学生がボランティアを体験しました。

活動初日、利用者の方と一緒に遊んだり、作業を手伝ったりしながら徐々になじんでいき、2、3日目には計算問題や漢字学習の先生役となり、一緒に問題を解いたり採点作業を担当しました。



### 「あたたかい心を持って」

柳葉 れなさん（植草学園大学1年、福島県出身）

はじめは緊張しましたが、温かい雰囲気の方々ばかりで安心して活動できました。大学では特別支援学校教諭の免許取得を目標に学んでいますが、小学生以上の利用者の方々と接する機会はこれまでなかったので、貴重な経験となりました。あたたかい心を持って人と接することができる人間でありたいと改めて強く感じました。



## 福島からの子どもたちとともに

## 受入協力機関：手のひらに太陽の家

宮城県登米市にある復興共生住宅「手のひらに太陽の家」で、9月19～21日、夢を応援プロジェクトの奨学生がボランティアを体験しました。木の性質を知り抜いた地元の大工や職人が日本古来の伝統工法で建設に当たった手のひらに太陽の家は、自然エネルギーと自然素材を利用した循環型住宅。東日本大震災や福島第一原子力発電事故の影響で、さまざまな困難に直面している親子の受け入れ支援を続け、Civic Forceも

発足当初から運営面でのサポートを続けてきました。

奨学生は、太陽の家が主催する2泊3日の「手のひらキャンプ」を手伝う形で参加し、福島親子と寝食をともにしました。プログラムでは、地元のお祭りや「ビン笛つながりコンサート&ワークショップ」、雑木林での散歩、バーベキュー大会、南三陸さんさん商店街ツアーなど、市内外からの協力者とともにイベントの開催を盛り上げました。



### 「つながりを大切に」

央戸 北斗さん（岩手大学3年、宮城県出身）

3日間子どもたちと過ごし、子どもの視点に立ってみると見えるものがたくさんあると感じました。プログラムでは木登り、薪（たきぎ）割り、ぶどう狩りなど、自然とふれあうことができました。今回出会ったたくさんの人とのつながりを大切に、今後も様々なことに挑戦していきたいと思います。

## アジア に 展開する

東日本大震災の経験から何を学び、何を共有するのか。災害が頻発するアジア地域において、支援を展開するための即応体制づくりを続けています。

A-PAD

### スリランカで防災能力強化ワークショップ

自然災害の多いスリランカに対し、Civic Force は、2014年2月から防災能力の向上を目的に「コミュニティにおける防災能力強化事業」を実施しています。2015年2月に終了した初年度事業に続き、現在2年目のプロジェクトを実施しています。

1年目は、2004年のスマトラ沖地震による津波で大きな被害に遭ったスリランカ南部のハンバントタ県で、県、郡、村の防災担当官をはじめ、農家、青年グループ、女性グループや学生などのコミュニティ住民を対象に、災害能力強化のためのワークショップを計31回開催し、延べ2,058人が参加しました。その結果、参加者からは「実際の生活や仕事に活用できる知識が得られた」という意見が多く出ました。2015年1月の洪水

被害で役立つ事例もありました。中央・県レベルでは、多様なアクターが参加する防災ナショナルプラットフォーム「アジアパシフィックアライアンススリランカ(A-PAD スリランカ)」を設立。企業や政府機関などと連携し、干ばつ被害、土砂災害、水害などスリランカ国内で発生した自然災害に対し、緊急援助を行いました。こうした活動を受け、A-PAD スリランカに賛同する企業が増えるとともに、支援の内容も被災者のニーズに沿って多様化し、様々なアクターが参加する効果的な支援のプラットフォームが構築されつつあります。

そして、2年目の現在は、スリランカ北部のジャフナ県、ムライティブ県を対象に、これまでの知見を生かしつつ、防災能力強化ワークショップを実施しています。



小学校や地区の住民を対象に実施された防災ワークショップ

### ネパール地震被災者支援 ご寄付のお礼

ネパール中部で4月に発生した地震被害に対し、Civic Force がメンバーとなっている国際機関「アジアパシフィックアライアンス(A-PAD)」とNPO「ピースウィンズ・ジャパン」の合同チームは、発災翌日から被災地に向けて出発し、緊急支援活動を開始しました。

これまで首都カトマンズ市や特に被害の大きかったシンデウパルチョーク郡で行方不明者の捜索活動や、物資の調達・配布の活動を行いました。救助犬の懸命な捜索活動を見た被災者の方々から「日本からの支援は心強い」「レスキュー犬の働きに感謝したい」と声をかけられる場面もありました。また、孤立した地域では物資が1週間以上届かず、初めて届いた支援に感嘆の声を上げる人もいました。

皆様からのご寄付は、8月末までに合わせて約979万円にのぼります。多大なるご支援にお礼申し上げます。

## 緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。

### 緊急即 応体制

## 海上自衛隊幹部学校で講演

Civic Force 代表理事の大西健丞が、7月7日、海上自衛隊幹部学校で、「NGOの現状と未来への挑戦～民軍協力を考える～」を演題に講話しました。幹部学校での講話は今年で5年目。イギリス、韓国、フィリピンからの留学生を含む学生と職員約70人が聴講しました。

幹部学校では上級の部隊指揮官や幕僚としての職務を遂行するために必要な知識・技能の習得を目的に教育訓練が実施されており、各界の有識者による講話の一環として大西が登壇。大西はイラク、コンボ、東ティモールやアフガニスタンでの緊急人道支援をはじめ、Civic Force 設立に至る経緯や東日本大震災、アジアでの支援活動、企業・政府との連携、民軍協力の可能性について話しました。



講演する代表理事の大西

### 緊急即 応体制

## 1日1回 1クリックするだけ

1日1回1クリックするだけで社会貢献につながります。

■「gooddo (グッドウ)」  
<http://bit.ly/17Xr7N3>

■PSC クリック募金  
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

### お知らせ

## 東京事務所移転のお知らせ

Civic Force 東京事務所は 2015 年 4 月 27 日から以下の住所に移転しました。

(新住所) 〒151-0063

東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12  
富ヶ谷小川ビル 2 階

### 緊急即 応体制

## 1日 33 円から できることがあります

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額（1000 円単位）をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シビックフォース」です)

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。

[https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin\\_type=donation](https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation)

※マンスリー・レポートおよびニュースレターのバックナンバーは、

<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。



